

平成30年度 学 校 評 価 報 告 書

島根県立益田高等学校

【合い言葉】「 自 立 へ の 道 程 (みち)」

【重点目標】 (1)進路保障 ① よりよい社会を創るという目標を共有し、自己の将来の在り方・生き方を考える機会を通じて早期に進路目標を設定させ、進路実現に向かう意欲と態度を育てる。
② 進路決定に必要な情報の提供や面談等より、生徒の進路実現に向けた意欲を喚起し、日々努力する習慣を身につけさせ、目標実現に向けて必要な学力を獲得させる。

【教育目標】主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。

【教育方針】(1) 生徒の進路目標を早期に確立させ、その実現を支援する。(進路保障)

(2) 基礎基本に基づいた確かな学力を育成する。(学力保障)

(3) 豊かな人間性を養い、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成する。(資質保障)

(2)学力保障 ① 習得・活用・探究を意識した授業改善に取り組み、生きて働く知識・技能と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力などの学力（学ぶ力・学んだ力）を伸ばす。
② 「わかる・力がつく」授業を行い、自主的な学習を促すとともに主体的な学習に取り組む態度を育成して、やりきる力と個に応じた能力が身につくようにする。
③ スーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH」）への取組を通して掘り起こした興味・関心・疑問を研究課題に深化させ、科学リテラシーと創造性の素地を育てる。

(3)資質保障 ① 生活時間の3点固定、あいさつ、言葉遣いや身だしなみなど基本的生活習慣の確立を図るとともに教育相談を充実して、生徒が心身ともに健康な生活を送れるようにする。
② 部活動、生徒会活動、学校行事等への積極的な参加を促し、生徒に主体性・協働性・責任感を身につけさせ、社会に貢献する意欲・態度と他者と共に生きる姿勢を育む。
③ 読書や芸術に触れる機会を積極的に持たせることで、自分自身や社会を見つめる広い視野、豊かな感性と表現力を育てる。

評価項目	領 域	中 期 目 標	短 期 目 標	成 果・取組指標	自 己 評 価 達 成 状 況	評価	学校関係者評価 考 察	改 善 策
学 校 運 営	環境整備	働きやすい職場環境の構築 学びやすい学習環境の構築	・教育目標及び重点目標を、全教育活動を通して達成する。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。	・合言葉「自立への道程(みち)」のもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業、進路行事など全教育活動を通して、全教職員が努力した。	3.1	・SSH事業の成果を、マスコミなどを用い精力的にアピールし、もっと本校の魅力発信に努めるべきである。	・SSH事業新規プログラムである「普通科文系課題探究」は、当初計画から変更しながら柔軟に実施した。来年度はSSH事業部だけでなく、さらに他分掌や学年会との連携を密にし、プログラムの内容・計画を改善し運営に当たりたい。 ・今年度以上に分掌間の連携を強く意識し、教育活動を効果的に実践する。 ・生徒・保護者・地域に生徒・学校の活動の様子がより伝わるようにする。 ・PTA総会の内容については、さらに保護者のニーズに応えられるものにする。 ・図書館が校内の学習センターとなるように「学びのガイド」の利用方法をさらに検討していく。特にSSH事業に係る授業、進路学習に係る資料等をさらに揃え、探究学習活動に資する書籍の充実を図るなど環境整備を行う。 ・ホームページの更新を迅速にし、多くの方々に益田高校の「今」を知ってもらおう。また、緊急メール加入率の引き上げを図り情報伝達に役立てる。 ・生徒が清掃に時間いっぱい積極的に取り組めるように指導を継続する。また、生徒自身の机上あるいは机周り、ロッカー等の整理整頓を心がけさせる。 ・年間所要額の把握に努め、予算の効果的な執行により要望に沿った備品や設備の整備に努めた評価は高く、次年度以降も継続したい。
			・目標達成に向けた適切な学校運営を行う。		・教職員の多忙感を軽減するために、分掌、教科会、学年会の各組織間の連携に努めたが、行事の見直し・精選について次年度も継続して改善が必要である。	3.1	・SSH事業の取組は本校の特色でもあり、第4期の新規プログラムの成果も期待している。	
			・校内組織及び校務分掌を連携、機能させる。		・毎学期ごとに「益高PTAだより」を刊行し、保護者・地域への広報がなされ、教育活動への理解を深めている。	3.0	・益田には人口の割合からして公私4校あって過剰気味である上に他地域の選択もあり、生徒募集では苦戦を強いられている。やはり学校の魅力作りが必要なんだと感じる。SSHの文化系(SGH)を考えてもいいのではないかな。	
			・PTA活動を通して保護者との連携を密にし、その活性化を図る。		・蔵書を適切に管理し、計画的に必要な書籍を購入するなどして、図書館運営がスムーズに行われた。また、他分掌と連携して必要に応じた資料提供を行った。	3.3	・来年度の学級減に加え、志願者数も減っていることに驚いた。中学校説明会でのプレゼンをもっと益高に行きたいと思わせるものになるように検討してみる必要がある。	
			・学習や進路実現を支援する適切な内容、量の蔵書を整え、利用しやすい図書館運営を行う。		・利用しやすい図書館となるように館内外の掲示・展示等の工夫を心がけた。	3.4	・来年度は学級減による図書数の減少は避けたいと思う。	
生 活 指 導	豊かな人間性の育成	自他を尊重する精神の育成 豊かな人間性の育成	・生徒会や各種委員会をできるだけ主体的に活動させることで生徒の資質を伸ばす。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。 ・人権・同和教育研修会を開催し、共通理解を図る。 ・人権・同和教育LHRを全学年毎学期行い、その意識の高揚を図る。	・生徒会役員による学園祭企画運営、生徒会誌「ななお」編集、さらに今年度は生徒の服装規定改定にも積極的に取り組み、生徒の達成感を高めることができた。	3.3	・以前から話題になっている制服の見直しについて、女子の制服が変わったら益高に行きたいと思う女子生徒も増えるのではないかな。ネクタイとか少しの変化でも検討してみてもどうか。	・生徒会役員を中心に自主的、積極的に活動した生徒会活動を継続して活性化させ、学校行事のあらゆる場面で生徒の主体的な活動につながるよう支援する。 ・読書の啓発活動の一環として、図書委員による図書購入を「図書新聞」に掲載しその充実を図る。また、継続して課題研究、小論文等の情報提供を推進する。 ・次年度も各学年正担任より人権・同和教育担当をつくり、より組織的に生徒一人ひとりの人権意識の向上に取り組む。また、人権センターをはじめとする地域との連携に取り組むとともに、講演会、HR活動などを公開するよう取り組んでいく。 ・PTA総会での奨学金や進学費用等のお金に関する話は生徒同席も検討していく。 ・SNSについての啓発を継続し、必要に応じて専門家による指導の機会を設ける。 ・安全安心アンケートも引き続き実施して、生徒の実態把握をする。 ・部活動の在り方に関する総合的ガイドラインに沿って各部で計画をたてる。 ・自転車鍵かけマナーアップ推進校2年目として、交通委員会主導の活動をより活発にした。継続してマナーアップ向上や通学ルール等を遵守するように取り組む。 ・行事の精選において、芸術鑑賞会は3年に1回の開催とし芸術科が主担当となり生徒にとって効果的なものと考えていく。来年度はピアノ五重奏の予定である。
			・図書館から情報を十分提供し、読書や資料活用の推進を図る。		・利用しやすい図書館となるよう館内の提示、展示等を工夫し、図書新聞に先生方の読書紹介や紹介本コーナーを作成するなど、図書委員会の活動を活性化した。	3.3	・制服の見直しについては、卒業生からするとガラッと変わってしまおうと淋しく思う人もいると思う。変えるとなると夏服のカッターシャツとかブラウスとかソックスとか小さい規模で変えてみるのもいいのではないかな。	
			・自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成に取り組む。		・講演会やHR活動などにより生徒の人権意識の向上に努めた。	3.2	・制服の見直しについては、卒業生からするとガラッと変わってしまおうと淋しく思う人もいると思う。変えるとなると夏服のカッターシャツとかブラウスとかソックスとか小さい規模で変えてみるのもいいのではないかな。	
			・広報活動等を通して家庭や地域と連携しながら、人権・同和教育を行う。		・安全安心アンケートを実施し生徒のいじめ等の実態把握に努めた。	3.2	・制服の見直しについては、卒業生からするとガラッと変わってしまおうと淋しく思う人もいると思う。変えるとなると夏服のカッターシャツとかブラウスとかソックスとか小さい規模で変えてみるのもいいのではないかな。	
			・基本的生活習慣を確立し、心身の健康を自ら管理する姿勢を育成する。		・基本的生活習慣の確立の大切さを、学校生活のあらゆる場面で伝え指導できた。	2.9	・歯科医からスマホを前屈みで使っていると、歯が噛み合っ	
	社会を生き抜く力の育成	規範意識の定着 基本的生活習慣の確立	・規律ある部活指導を行い学習と両立する。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。	・風紀指導については、全教職員の共通理解をはかり、その場での指導を心がけた。	3.2	・一つひとつでも多角的視点で指導していく必要がある。	
			・交通ルールを遵守させ、街頭指導や自転車点検など、交通安全指導を適切に行う。		・家庭学習時間が確保できるように、部活動終了後の速やかな下校等を指導した。	2.8	・部活動の在り方に関するガイドラインについて、生徒はまだその具体を知らないが、各部の年間計画等を作成するのに生徒にも関わらせた方がいいと思う。ただ私立高校とのレベルの差は拡大する一方だと懸念される。	
			・優れた芸術や文化に触れる機会や情報を提供する。		・交通安全週間に合わせた教職員や保護者による街頭指導を行いその意識を高めた。	2.8	・各部活動がどのレベルを求めているのか、どうしたらレベルアップできるのかという工夫が必要である。生徒には学校生活でやり切ったと言えるぐらいのエネルギーを生活を送ってもらいたい。	
			・学習習慣の定着と学力向上に向けた取り組みを適切に行う。		・自転車鍵かけマナーアップ推進校として、生徒中心の取り組みは昨年よりはできた。	-	・来年度のGW10連休のために、何か学校行事を取りやめることがあるか心配されたが、遠足、希望者模試も例年通りでカットする行事はない。	
			・常に授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る。		・芸術鑑賞会に加え、学園祭での3年演劇部門や文化部総合公演「マスティバ」の実施により、多くの生徒に芸術に触れる機会を提供できた。	-	・益田には普通高校が3校あって、益高は鍛えられるということで保護者が嫌がっているようだが、あくまで益高はそれを目指すという雰囲気作りをする必要がある。何でも楽な方ばかり選び、安きに流れさせないようにしてほしい。	
学 習 指 導 ・ 進 路 指 導	確かな学力の推進	基礎・基本の定着 知的応用力の育成 主体的な学習態度の育成	・学習習慣の定着と学力向上に向けた取り組みを適切に行う。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。 ・生徒による授業評価を1・2学期末に実施し、指導法改善及び指導力向上に活かす。	・学習習慣を定着させるために、学習の記録や時間調査を効果的に活用した。	3.1	・各部活動がどのレベルを求めているのか、どうしたらレベルアップできるのかという工夫が必要である。生徒には学校生活でやり切ったと言えるぐらいのエネルギーを生活を送ってもらいたい。	・新しい学力観を踏まえながら教育課程を編成し、生徒の進路を保障する。 ・幅広い学力層の各層に応じて指導方法を改善し、評価方法も検討していく。 ・ICT機器が完備され、多くの教員が積極的な授業改善に取り組んでいる。AI型授業の充実を図り、ICT機器のより有効な活用を研究していく。 ・今年度は土曜特別補習への欠席が目立った。改めて補習や模試を行う意義を伝えることと、生徒にとって充実感の持てる魅力あるものにしていく必要がある。 ・3年生の2学期は例年同様、理社を中心として教科の進捗を考慮し、生徒の学力実態に対応した授業となるように変更を加える。 ・今後とも大学入学共通テストに向けて「思考力・判断力・表現力」を重視した問作や、授業や教材研究はもとより、英語の4技能対応や推薦AO入試の利用を考慮しながら3年間を通しての進路指導全体計画を構築していく必要がある。 ・1年生対象の地域の企業人と語る「カタリバ」を継続し、職業観・勤労観を養う。 ・毎年実施しているが、2、3年生に対して地元企業による説明会を実施し、地元産業を知る機会を設け、将来の益田圏域でのキャリア意識の育成を図る。 ・生徒一人ひとりの進路保障に向け、全校協力体制のもと必要な個別指導を継続していく。また担任による定期的な面談や教科担当による教科面談を続ける。 ・今年度のタイ王国の海外研修は、市が中心となり継続実施した。本校から13名、市内他校5名の希望者が参加した。より充実したものとなるように協力していく。 ・多方面からの専門的な助言もいただき、2年PS、3年SPの更なる質の向上を図る。
			・常に授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る。		・習熟度授業、モザイク授業により、各学力層に応じて個々の学力の伸張を図った。	3.1	・来年度のGW10連休のために、何か学校行事を取りやめることがあるか心配されたが、遠足、希望者模試も例年通りでカットする行事はない。	
			・土曜特別補習を行い、積極的に学習する姿勢と入試に対応できる応用力を育成する。		・各学期に授業公開旬問を設定し、授業公開と改善に努めた。また、すべての普通教室のICT機器導入が完了し、その使用頻度も高まっている。	2.7	・益田には普通高校が3校あって、益高は鍛えられるということで保護者が嫌がっているようだが、あくまで益高はそれを目指すという雰囲気作りをする必要がある。何でも楽な方ばかり選び、安きに流れさせないようにしてほしい。	
			・3年生の8限特別授業を効果的に実施し学力向上に役立てる。		・土曜特別補習の年間計画は立てるものの、その通りには実施できないため、各教科で工夫して対応している。特に英語は習熟度別に英検対策講座を実施した。	3.2	・採れないと学力は伸びないとわかってるだろうけど、苦勞させなくてもあの大学なら益高に行かなくても入れるからと、親の方が考えている雰囲気がある町の中にあるようだ。競争するという地域の風土がないのが問題である。もう少しこの地域の意識レベルを底上げする必要がある。	
			・県総体終了後、生活リズムの切り替えを意識して、3年8限補習を設定し展開した。学園祭終了後、理社を中心に3年8限授業を設定し効果的に実施した。		・地元企業による説明会を実施し、地元企業を知る機会を設けたり、特に1年生には「カタリ場」を実施し、多くの職業人との出会うことにより職業観の育成を図った。	3.1	・近年、成績優秀な子が県外高校へ進学する傾向が強くなっていると思う。浜田高校はいわゆるハイクラスがあるようだが、益高普通科でも考えてはどうか。	
	進路目標の実現	職業観の育成 進路目標の確立 能力・適性の開発	・3年間を見通した進路指導計画の下、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。	・各学年とも保護者進路説明会の開催や学年通信を発行し、保護者への進路情報の提供を行った。外部講師による学年別進路講演会等も企画し、生徒の進路意識や学習意欲の高揚を図った。	3.3	・継続して、校舍老朽化に対する改築修繕をPTAや同窓会と協力して、積極的に要望していかないといけない。	
			・進路希望調査、職業人講話などを行い、進路意識の高揚に努める。		・地元企業による説明会を実施し、地元企業を知る機会を設けたり、特に1年生には「カタリ場」を実施し、多くの職業人との出会うことにより職業観の育成を図った。	3.1	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	
			・個別添削、小論文指導や面接指導を組織的に行い、進路実現を支援する。		・教科や学年部と連携を図り、効果的に小論文指導・面接指導を行った。また、担任と教科担当の連絡を密にし、3学年を中心に個別添削指導を実施した。	3.1	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	
			・研修旅行や課題研究に、新たに2年文系課題探究を加え更なるSSH事業の充実を図る。		・SP、さいえんすたうん、関西・関東研修など様々なプログラムについての体系的な取り組みができた。今年度は市が中止となり、タイ王国海外研修を継続実施した。	3.2	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	
			・1年生論理的思考力基礎演習SPを通して、論理的な思考力・表現力を育成する。		・2年理数科、普通科文理クラスとも小学校へのアウトリーチ活動を継続している。今年度2年生普通科文系は、地域創生の在り方を考える課題探究に取り組んだ。	3.2	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	
安全管理	安全対応能力の向上	危機管理体制の確立 危機回避・対応能力の向上	・危機管理の手引きを作成し、事故発生時に対応できる体制を整える。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目標とする。 ・避難訓練、安全点検の実施について報告できる。	・「緊急避難マニュアル」を作成し、全教職員に配布し地域での対応を確認できた。「危機管理の手引き」については、来年度改めて内容を確認し作成したい。	3.2	・継続して、校舍老朽化に対する改築修繕をPTAや同窓会と協力して、積極的に要望していかないといけない。	
			・学校防災計画を作成し、計画的に実施する。		・防災計画どおり実施できた。また、各学期ごとに避難訓練のテーマを設けて実施し、防災意識を高めることができた。	3.3	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	
			・安全点検を計画的に実施し、安全な環境整備を図る。		・保健部、学校衛生管理者、双方より安全点検を行い、対応可能な所についてはスピーディーに対応し、生活環境等の改善を行った。	3.4	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	
			・危険な施設や設備を計画的に整備する。		・施設設備については、安全点検等の要望から優先順位をつけて予算の範囲で計画的に行い、安全な環境整備を迅速に進めていくことができた。	3.6	・部活動環境面において、野球グラウンド・練習場やテニスコートを整備し直したところだが、サッカー部の生徒の怪けが多いことからサッカーグラウンドの整備が必要である。	